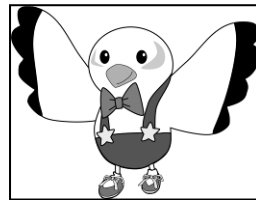


～子供に夢や感動を！～

# 東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 6 月 20 日  
< 第 2 号 >  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

## ●第 2 回ゼミナール「授業づくりの基礎①」(公開)

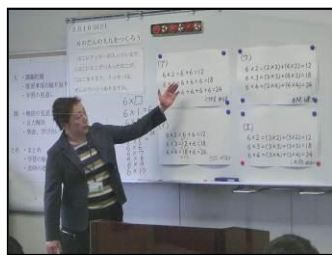
平成 27 年 5 月 10 日(日)に、第 2 回ゼミナール「授業づくりの基礎①～学習指導案の作成から授業実践へ～」を実施しました。今回のゼミナールは、連携大学及び次年度連携予定大学の学生を対象に公開ゼミナールとして実施し、約 360 名の学生が参加しました。

ゼミナールでは、養成塾教授による講義と模擬授業を通して、教材提示の方法や発問の仕方等、授業づくりの基礎的な事項について、理解を深めることをねらいとしました。

塾生及び大学生は、国語、算数、特別支援教育の分科会に分かれ、各教科等の授業づくりについての講義を受けました。国語と算数の分科会では、今回行う模擬授業の学習指導要領上の位置付けや、発問・指示の工夫などについて、教授による解説を基に学びました。また、特別支援学校の分科会では、教の基礎概念の系統的な指導について学びました。小学校コースに参加した大学生からは、「模擬授業を通して、『導入・展開・まとめ』のそれぞれの段階で行われる指導、発問や資料提示の工夫、児童の発言の取り上げ方等、教師の授業中における役割がいかに大切であるかを学ぶことができました。」といった感想が寄せられました。



国語「声に出して楽しもう」



算数「かけ算(2)」



特別支援「障害のある子供の教科指導」



模擬授業を受ける塾生の様子

## ●第 3 回ゼミナール 「授業づくりの基礎② ～道徳の時間の指導～」

平成 27 年 5 月 23 日(土)に、第 3 回ゼミナール「授業づくりの基礎②～道徳の時間の指導～」を実施しました。今回は、道徳教育や道徳の時間の目標、内容、指導のポイントについて理解することをねらいとしました。まず、講義を通して、道徳教育や道徳の時間の意義、道徳教育の在り方、道徳の時間の目標と内容などについて学びました。次に、模擬授業に参加し、道徳の時間の基本的な流れについて学びました。また、道徳の時間の実践事例を基に、中心発問を考える演習も行いました。

講義や演習、模擬授業を通して、塾生は、教育活動全体を通じて道徳教育を行うことや、道徳の時間の基本的な流れを押さえた授業づくりを学ぶとともに、子供たちがこれまでの自分の生活を振り返り、人間としてよりよく生きようとする力を育成することなどが道徳の時間を進める上で大切であることを学びました。

### 【塾生の感想より】

- ・ 道徳の時間の指導は、「導入」「展開前段」「展開後段」「終末」から構成され、それぞれの段階で、子供にどのような学習活動をさせるかということや学ぶことができました。また、学習指導案の作成の際、発問をどのように組み立てるかということや、子供の心の動きを予想して授業を考えていくことが大切であることを学んだ。
- ・ 模擬授業に参加し、児童が内容を理解しやすいように絵や図を用いてイメージを膨らませたり、役割演技を通して自分たちが気持ちを考える機会をつくらせることの大切さを学んだ。
- ・ 授業では、新聞記事や紙芝居、ペープサート、パネルシアター等、様々な資料が活用できることを学んだので、特別教育実習の授業でも取り入れていきたい。



—役割演技の様子—



—模擬授業の様子—



—講師：近谷教授・高橋教授・関口教授—



—演習の様子—

## ●第2回講義

### 「心と心をつなぐ ～コミュニケーション能力を高める～」

平成27年6月6日(土)に、株式会社マネジメントサポートの城ノ内晴美先生を講師としてお招きし、第1回講義「心と心をつなぐ～コミュニケーション能力を高める～」を実施しました。今回の講義は、心と心をつなぐために、自分の言葉で伝えることの大切さなどを理解し、適切なコミュニケーションを図ろうとする態度を培うことをねらいとして行いました。

講義では、相手の立場に立ったコミュニケーションが大切であること、「伝える」と「伝わる」は似ているが意味が異なり、相手に理解してもらいたいときは、自分の目線の「伝える」ではなく「伝わる」ということを意識すること、相手の話を傾聴することの大切さを学びました。また、相手が話しやすいような雰囲気づくりを心掛け、表情やうなずきをしっかりと取り、相手の目を見て聴くことが大切であることも学びました。

#### 【塾生の感想より】

- ・ 指定校での先生方とのコミュニケーションは自分自身の課題であった。なかなか質問できず、勝手に判断し、迷惑をかけてしまったこともあった。今日の講義で学んだ尋ね方を参考にし、情報を自分から手に入れることを意識していきたい。
- ・ 「聞く」と「聴く」の内容を踏まえ ペアワークを行って改めて聞き手の重要性について学んだ。実習中に、児童との関わりで、聞き手としてふさわしい態度であるかどうかを振り返り、「心と心をつなげる」という意識をもって児童と接していきたいと思う。
- ・ 傾聴の大切さについて、体験を通して学ぶことができました。相手の顔を見て話を聞くことやうなずくことで、相手が話しやすくなるということを学んだので、今後児童と関わる際にも生かしていきたい。



—城ノ内晴美先生による講義—



—演習の様子—

#### 【連載シリーズ 授業づくりのポイント①】

### ◇教科等の特性と学習指導案の作成◇

東京教師養成塾教授 安齋 正彦

#### 1 教科等の特性について

それぞれの教科には特性があり学習対象が違います。ですから国語は言語に、社会は社会事象に、算数は記号に、理科は自然事象に、常に立ち返って指導する必要があります。

今日、教科学習の中では考える力を育てることが重要な課題の一つとなっています。「考える」上での出発点は「どうしてだろう」「なぜだろう」という疑問をもち、その気付きを基に予想や仮説を立てることです。もっている知識を組み合わせながら疑問をもったことについて自分で調べ、他の人にも納得できる結論を作り上げていく。こうしたプロセスを踏むことで「考える力」が深まり、社会に出たときの生きる力にもつながっていきます。

理科の場合、その学習活動は観察・実験を通して、(1)実証性(実験で確認できる)(2)再現性(必ず同じになる)(3)客観性(誰にでも共有できる)の3つの要素を確かめていく作業であり、事実に基づいて考える姿勢を習得していくことができます。

また算数は、「正解」「不正解」が明確な教科ですが、正解に至る過程は何通りもあります。それぞれの解決方法は必ず論理的に説明されなければならない、筋道を立てて考える力を身に付けていくことができる教科です。

このように主観に左右されない理科や算数の教科は、本来、論理的な考え方を身に付けるのに適した教科と言えます。それらの教科の特性を生かすためにも塾生の皆さんには日々、指導における様々な配慮や工夫を今後学んでほしいと考えます。

#### 2 学習指導案の作成について

学習指導案は、授業の設計図であり、道標でもあると言われます。校内研究や研究発表があるから作成するのではなく、授業そのものの質を高め、授業の方向を確かなものとするために作成するものです。また、授業の主役は子供自身です。確かな子供たちの学びを保障するためにも必要なことです。

学習指導案を作成しながら、教材の内容が深く理解できたり、指導内容の系統を改めて理解できたりするということがよくあります。既に深まった教材理解や解釈を学習指導案に記述するというより、学習指導案を作成することにより、教材理解・解釈が更に深まるという一面は見逃せません。また、同じように学習指導案を作成することにより、改めて子供の実態を捉え直したり、子供の課題を再認識したりすることがあります。既に十分に把握された子供の実態や課題を学習指導案に書くというより、学習指導案を作成することを通して、子供の理解を更に深めるということも現実としては、よくあります。

学習指導案は、授業の道標でもあると述べました。また、教材を「山」に例えると「授業」は、子供とともに「山に登る」こととして捉えられます。学習指導案の中に教材の見所や「危険箇所」(子供のつまずきやすい箇所)を明示し、そのつまずきを克服するための方法を事前に明らかにすることにより、学習指導案は、子供にとっての安全な「山登り」を保障する道標となるのです。